

## 火曜日(2講座開講)

マルティン・ハイデッガー『言葉への途上』を読む(隔週・計6回)

**授業時間: 午後の部(16時30分～18時00分)** 初日:10/4 講師:山取 清  
ハイデッガー自身認めるように、彼の思索の筋道を早くから決定していたのは、「有」と「言葉」の問題でした。6編の論文から成る『言葉への途上』は、詩の解明やロゴスへの論究、さらにフンボルトの言語論との関連など、『存在と時間』以後の歩みを理解するうえで欠かせない資料です。この講義では、この論集を読むことをとおして「言語とは何か」という問題意識をてがかりにしなが、西洋思想史を紐解いていきたいと思ひます。



西田幾多郎『日本文化の問題』を読む(隔週計6回)

**授業時間: 午後の部(14時50分～16時20分)** 初日:10/4 講師:高坂 史朗  
西田幾多郎の『日本文化の問題』は京都大学の月曜講義をもとにして昭和15年に岩波新書として出版されたものである。彼はその「序」で「今日日本文化が世界文化として考えられ、世界文化として発展するには、それがいかなる意味に於いて、またいかにしてということが考えられねばならない」と述べている。西田のこの作品を精読しながら「日本文化」を「問題」として考えたい。



## 水曜日(2講座開講)

村上春樹の長編小説をテーブルにあらためて人間と文学について語り合う(隔週計6回)

**授業時間: 夜の部(18時30分～20時00分)** 初日:9/28 講師:清 真人  
拙著『村上春樹の哲学ワールド』(はるか書房、1900円)をいわば議論のテーブルにして、村上文学のなかで人間が抱えるどんな問題がどんな仕方で主題とされているかを振り返りながら、あらためて人間について語り合ひましょう。物語への欲求、記憶とアイデンティティ、運命、自閉からの解放、愛、性とエロス、暴力、等々のテーマが浮かんできます。



聖典を読む:『法華経』(毎週計12回)

**授業時間: 夜の部(18時00分～19時30分)** 初日:9/21 講師:長崎 誠人  
この講座では受講生と一緒に仏教経典『法華経』を読んでいきます(全部は読めませんが、どの部分を読むかを相談のうえ決めます)。聖徳太子の時代以来、近代さらには現代にいたるまで、日本の精神文化に大きな影響を与えつづけている『法華経』を読み、理解することによって、日本文化を理解するひとつの手掛かりを得たいと思ひます。



## 木曜日(4講座開講)

自力で作る家(隔週計6回)

**授業時間: 午後の部(15時00分～16時30分)** 初日:9/29 講師:奥富 利幸  
20世紀は大量生産と大量消費の時代であり、家も例外ではなかった。住む人は、自分の家を誰が設計し、誰が造ったのかわからないままに生活している。とても便利な時代ではあるが、何か物足りなさを感じてしまう。太古から人間は、自らの手でモノをつくりだして生活を豊かにして来た。モノをつくることは苦勞もあるが、楽しみもある。本講座では、セルフビルドを貫く建築家・建築史家の藤森照信教授の家造りを読み解く。



『源氏物語』を原文で読む **午後の部: 隔週計6回(15時00分～16時30分)** 初日:9/22  
(隔週交代制) **夜の部: 隔週計6回(18時30分～20時00分)** 初日:9/29

講師:近藤 百合子

原文を声に出して読んでいきます。音読することで、黙読では見過ごしがちな原作の息遣いやリズムを身体的に直接的に味わうことができます。時には登場人物に、時には作者になりきって、平安貴族の愛と苦悩の世界に遊びましょう。瑣末な文法や語釈にこだわらず、場面場面に関連するエピソードを他の古典作品から引用紹介しつつ、楽しく読みすすめます。



## 木曜日

シュロモー・サンド『ユダヤ人の起源』を読む(毎週計12回)

授業時間:夜の部(18時30分~20時00分)

初日:9/29 講師:鈴木 伸太郎

「ユダヤ人」という民族や「イスラエル」という国家は、日本人や日本国とは対照的な存在と言えます。日本人とは、漠然と「昔から日本に住んできた人たち・その子孫」と捉えて、それ以上のことにはあまり頭を悩ませない人も多いと思います。しかしユダヤ人にとっては、ユダヤ人の定義からして激しく危険な論争の種になりかねないものです。当然それは、彼らの国家の在り方にも深く関わってきます。日本からすると一見縁遠い存在のようですが、日本人があいまいにしがちな、民族や国家について改めて考えていくのに、よい手掛かりを提供してくれると思います。ヨーロッパ、中東、ロシア、中央アジアなどにまたがる民族や国家や、国際問題に関する理解も深めてくれる本です。



## 土曜日(2講座開講)

この機会に「世界宗教の経済倫理 序論」を読んでみる(隔週計6回)

授業時間:土曜日の部(15時00分~16時30分) 初日:10/1 講師:堀田 泉

「近代資本主義」とは何であり、私たちにどのような運命をもたらすか、という問題意識のもとに世界の主要な宗教と資本主義との関連を探ったマックス・ヴェーバーの壮大な宗教社会学のエッセンスともいえるべき「序論」をじっくり読んでみる。百年近く前に執筆されたものでありながら、なお私たちの日常生活の根本的な仕組みと意味が見えてくると思う。



ヨーロッパ文化紀行(隔週計6回) (講師3人リレー式) 初日:9/24

授業時間:土曜日の部(15時00分~16時30分)

第一回目(9月24日)と第二回目(10月8日) : ドイツの文化と生活とオーストリアの文化と生活

担当講師:徳永 恭子

脱原発で最近話題に良くのぼるドイツですが、ドイツでの生活、そして文化を映像や写真を見ながら身近に見ていきましょう。

オーストリアではドイツと同じくドイツ語が話されます。しかしドイツとオーストリアは全く異なった国で、それぞれ独自の文化があります。今回はオーストリアの文化と生活を見ていきましょう。



第三回目(10月22日)と第四回目(11月12日) : イギリス文化紀行 自然 を考える

担当講師:清水 伊津代

このたびの大震災によって、私たちは自然の力と人間のあり方を、否応なく見せつけられました。古来、自然と人間はどのような関係としてとらえられてきたのか。この機会に、イギリス文化を通して、私たち人間が広く共有する 自然 のことを考えてみたいと思います。

22日 旅 シェイクスピアの時代から現代に至る 自然 の扱われ方について考えます。

12日 旅 イギリスの作家・ブロンテ姉妹の文学に見られる 自然 の意味について、考えます。ヨークシャーの荒野に魂を遊ばせて、人が生きるとはどういうことかを考えましょう。



第五回目(11月26日)と第六回目(12月10日) : フランスの世界遺産を巡る旅

担当講師:松村 博史

26日 旅 フランスの様々な世界遺産を映像で見ながら、その歴史的背景やそれにまつわるエピソード、それらが位置している地方の特徴などを解説していきます。第1回はパリとヴェルサイユ宮殿を扱います。中世から19世紀、そして現代まで、生き生きとした姿を保ち続ける大都市パリの秘密を探り、ヴェルサイユでは太陽王ルイ14世の宮廷から貴族たちの生活、それにヴェルサイユが舞台となった さまざまな出来事を解き明かします。

10日 旅 フランスの様々な世界遺産を映像で見ながら、その歴史的背景やエピソード、周辺の地方の特徴などを紹介します。第2回はフランス各地にある様々な 世界遺産を見ます。石器時代のラスコー壁画に始まり、南フランスの古代ローマ遺跡、それに有名なモン・サン・ミシェルやブルゴーニュ地方にある中世の修道院について、多彩なフランスの各地方の魅力とともに見ていきます。



各講座の初日体験受講ができるようになりました!